

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あなたに寄り添った あなたらしい暮らしを		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の暗唱（朝礼後、個々の仕事始め）し、日々努力している	○	スタッフ一人ひとりが理念の理解を深め、実践できるように努める
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	さざん家だよりに必ず掲載する		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方からおすそ分けを頂いたり、畑の一部を借りて収穫の喜びを味わったり、近所の子供達が顔を見せてくれたり、入居者に犬を抱かしてくれる近所の人もある。また畑作業や庭木手入れの手伝いもしてもらうこともある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月、町内会回覧板にさざん家だよりを載せていただいている。また、地区デイサービスにも参加させてもらっている。また町内会文化祭にも出展している	○	クリスマス会等の行事にご案内をしている。より多く参加して頂けるようはたらきかけをしたい。さざん家の機能を地域に還元できるよう・認知症ケアに関する講習会で事例発表など、出来ることから取り組んでいきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者受け入れはできないが、町内会には役立つことがあれば、と申し込んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年、評価で指摘された点はおおむね改善した		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議で出席者の意見を十分に聞きホーム運営に取り入れている。外部評価を報告し、質疑応答、指導すべき点は受け入れている	○	より活発な意見を頂ける様、会議内容を充実させていきたい
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡会議に出席している。また、まごころ相談員の訪問も受け入れている		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在2人利用中。入居時にパンフレットにて説明し、パンフレットも用意している		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月刊福祉ニュースの回覧、気になる記事などの貼り出し等で意識を高め、スタッフ間で注意し合う	○	毎月の勉強会で認識を新たにし、徹底したい
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつでも相談を受ける旨の説明を入居時はもちろん、御支払い時などでも話している		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置、相談窓口のポスターの貼り出しをしている。直接にそちらへ電話しても良いとの説明もしている		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、各家庭へお便り(さざん家だより、各人の近況を手紙で同封)。健康状態(発熱、元気の具合など)変化があれば直ちに連絡している		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見投書箱を用意している。何もなくても定期的にスタッフ間で話し合うようにしている		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時受け付けている	○	発言しやすい場や環境作りに努めたい
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態を考慮し、生活の流れを支援する為これに即したローテーションを組んでいる		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の前には顔を覚えてもらえるよう1ヶ月の馴らし期間を設けている		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に際して、性別・年齢等の制限は設けていない。各人の特技を活かしている。防災・環境整備など各スタッフに役割を担ってもらいホーム運営に役立てている。勤務表もまずスタッフの希望をきいて編成、趣味・勉強といった自己実現の支援もしている		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修には積極的に参加するよう話しており、そのための勤務表編成の考慮もしている		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務表でやりくりしながら資格や研修を受けさせている		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女筑後広域連に参加し、研修や会議に参加している	○	筑後市にGH会が設置される予定なので、左記を退会した。また福岡県GH協議会に入会した
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	さざん家ソフトバレーボールチームを結成している	○	試合の時入居者と一緒に応援に行けるようになりたい。(現在は施設長と数名のみ)
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常々口にして話している。できるだけ将来の役立つ資格などを取得するように。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	情報提供書をスタッフ全員でよく読み、またご家族からの情報聴取に時間を割いたり、本人の入居前ホーム見学をしてもらう		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時に時間をかけて説明し、ホーム見学・説明をする		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科への受診をすすめ、グループホーム対応かどうかを診断してもらう		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時、事前面接を十分に行い、情報を収集し環境作りに努めている。御家族や本人が希望する場合、昼食・おやつ等を体験してもらう		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味を一緒にしながら、教えてもらったりしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から本人の情報をもらい参考にしながら、支援するよう努力している。ご家族の面会の度に近況を報告し意見や希望を聞いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴を十分理解し、本人の家族への思いや愛情を伝えるようにしている		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊・外出、またご家族の面会をととも喜んでいただくと伝えるよう努めている。利用者と一緒に散歩に行ったり、友人・知人の面会を歓迎している		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席の変更や作業を一緒にしてもらうなど、和を保ったり会話が続くような働きかけをしている		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時にはケアマネ、管理者はもちろんスタッフ全員が交代で面会に行く等をしている		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のペースや思いを重視し、スタッフの都合で業務をこなそうとしない		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をスタッフ全員で周知し、サービスの方向を検討している		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者を決め、一人ひとりのプランを管理者、ケアマネ等と話し合って決め、都度変更もしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成には、本人・家族・担当者・スタッフで情報を出し合い、計画作成をしている		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は必ず2週間後に見直しを行い、検討する。その後は3ヶ月を目途に評価。状態の変化があればその都度変更していく	○	現状維持、自立支援を目標につとめる
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成後は、ケース記録の個人記録の最初に綴じて、スタッフ全員で目を通すようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとって毎週の往診を受け、重度化しないよう看護師を配置している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の受け入れ、ボランティアの受け入れ、消防署の立ち入り検査、小学校・幼稚園の運動会見学、地区文化祭への出展・見学		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地区デイサービスへの参加をしている		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっている。また、まごころ相談員の見学も毎月受け入れられている		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとって毎週の往診を受けている		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に家族と共にスタッフも同行し、受診をしている		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤職員として雇用している 常に協力医との連絡、報告をおこなっている		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	できる限り面会をし、入院中の情報を病院スタッフから収集して早めの退院も受け入れている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	スタッフで繰り返し話し合い医師の意見を聞き、全員で入居者・ご家族の希望を確認している		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できる・できないこと」を検討し、医師と早めに相談し変化に備えている		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には入居者に納得して頂き、入居後にはできるだけご家族に来てもらい会話をしてもらう		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのちがいを尊重し、さりげない介助や私的な場所での礼儀、入居者の返答能力に応じた質問をする。入居者が思っている「現実」を否定しないように心がけながら接している。スタッフは誓約書に署名し守秘義務を徹底している		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日に着る服等を選んで頂く等、何事につけ「〇〇しますか」「〇〇していいですか」と問いかけをし、選択が難しい入居者には選びやすいように二者択一で問いかけたり「はい」「いいえ」だけでも意思表示してもらえようようにしている		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独りで散歩に出かける利用者もいる。決まった時刻に就寝させるのではなく、入居者のペースで就寝してもらう。朝も朝寝する人には朝食、昼食を加減するなど個人対応をしている。また家庭的な雰囲気づくりに気をつけている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、訪問理美容が来ており入居者の希望を訊きながら整髪している。もちろん地域の理髪店・美容院も利用可能だが現在は全員、訪問を利用している。ご家族と外出時に整髪された方もいる		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど簡単な作業を手伝ってもらっている。スタッフも同じテーブルで食事して、食器を動かしたり茶碗におかずをうつしたりと、さりげなくサポートするなどの介助をしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は現在一人で、事務所や天気の良い時には外のイスでたばこを楽しんでいる。御酒は本人、家族が希望されれば提供の用意はある。おやつはなるべくスタッフの手作りで一緒に食べており、飲み物も希望・好みに合わせている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、下着やおむつも入居者の心身状況別・昼夜別に使い分けをし、起立訓練や下肢筋力アップなどの排泄の自立に向けた取り組みもしている		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と入浴前の安静時にバイタルチェックをして入浴可能かどうかを判断。利用者の希望を訊きながら時間帯や長さ・回数などを決め快適な入浴ができるようにしている。個別入浴で、スタッフは必要時介助をし本人能力の維持向上を目指している		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、外気や日光に当たる散歩や日光浴をしたり軽い運動をしたりと安眠できるよう利用者やスタッフで検討・実行している。また自然に入眠して頂ける様、夕方～夜にかけて静かな雰囲気作りを心がけている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、食器拭き、畑仕事、草取り等ホームの活動に参加してもらう。歌好きが多いので歌番組のDVD観賞、一緒にカラオケ、計算や短歌、数並べ、また広場でのお茶やおやつを楽しんでいる		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している入居者は現在1名いて外出時に買い物をしている。本人紛失の危険性があるが家族の希望でもあるので利用者本人に任せている。普段所持していない人も買い物にお連れした時、介助支援しながらレジ支払いをして頂く等の場をつくっている		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩したり、買い物に同行してもらったり、また広場で食べたり、車で遠足に行ったりしている		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけ2ユニット又は1ユニットごとに遠足・レストランでの食事・柿狩り・花見などを行っている		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の代わりに封筒表書きを代筆したり、文字を教えたりして手紙のやり取りを援助している		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも受け入れる事を度々話しているし、受け入れてもいる		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしない事を理解しているし、絶対にしないと全員で確認している。またそれを実践している		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的に施錠はしていない。利用者の状態によってチャイムを使用することもある	○	見守りの強化、行動パターンの把握などでチャイムの使用を止めて、常時開錠をしていきたい
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室のドアは閉める、ドアロック、入室する時には了承を得るなどプライバシーの確保をしている。利用者の安全を十分に配慮している		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない所、見えない所、管理できる所に保管するよう周知徹底している		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ勉強会およびマニュアルの取り決めに従って取り組んでいる。また個別対応もしている		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間スケジュールに項目を入れて訓練、習熟している		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内のどこにいるかで、避難経路が決められており、避難場所も確保されている。防火管理者スタッフが「夜勤時緊急マニュアル」作成。昼夜別々の誘導方法を決めている。近所への協力依頼も行っている。	○	スタッフ全員に防火管理者講習を受けてもらい、災害に対する意識を高める
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会時に管理者・ケアマネが説明し、対応策を検討している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化・サインも見逃さない見守りを指導し、記録を録るように徹底。医師に指示された内容は、ケース記録・連絡ノートを活用し周知徹底している		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬の管理はスタッフが行っている。用法・用量について不明な場合は医師・看護師に確認する。「薬辞典」を用い自己学習も促している。毎月のスタッフミーティングの場を利用して勉強も都度行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者のケアプランに基づき、便秘予防に留意し、十分な水分補給・歩行させるなどを実行している		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	スタッフは必要性を理解し、ケアプランに基づき支援する。また必要時には往診依頼、受診の際には同行もしている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より個人個人に対応した栄養スクリーニングをしている		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それにしたがって実行している		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材業者より配達されたら直ちに、必ず冷蔵庫に保管する。また、台所・調理器具等は毎日、隔日、週に一度などと消毒のマニュアルがあり実行しているし、記録も録っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋造りで明るい外観で周囲に溶け込んでいる。敷地の囲いは低めのフェンス・生垣で開放的な雰囲気づくりをしている。玄関前はプランターの花を常時置き、目の前の畑の野菜や季節の花など楽しめるようにしている		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下の両側に居室・トイレ・風呂などを配置し、天井も普通の家みたいに低めでガランとした印象を受けないようにしている。飾りも入居者が書いた絵や行事写真など大人の空間になるような雰囲気、殺風景にならないような飾り付けを心がけている		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブル、ソファ、イスが置かれている他、冬にはこたつ・夏は座卓を置く畳の間もある。ソファやイスの配置により独りで、または2~3人で過ごせるよう考慮している		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は基本的には洋間であるが、希望に応じて畳を入れ和室にもなる。ベッド・布団は利用者・ご家族で決める。また持ち込みの家具も各自で自由であり、それぞれ異なる居室になっている		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いを発生しやすい行動をとられる利用者も何人かおられるが、常に換気に注意し、洗剤・消毒薬・お茶などで臭いがこもらないように努めている。温湿度計を各居室、リビングなど設置。毎日記録を録っている。また加湿器、除湿機、清浄機も設置している。冬場には洗濯物を夜間干すなど乾燥に特に注意している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない平屋造りで、壁やトイレなどにははてすりを設けている。また廊下も直線であり死角をつくらない構造で、入居者が危なくないようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご家族の協力で、家族の写真、絵を居室に貼っている。また日めくりカレンダー、新聞の活用、風呂・トイレの表示を大きくしている		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スロープを設置して外出しやすくし、物干し場に出たり、芝生の広場で外気浴・食事・お茶などを楽しんでいる。また周囲も畑が広がっており散歩しやすい環境である。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域柄、農作業や自然に親しんでいる方が多いので、畑で野菜や花を栽培し草取りや収穫の場を提供している。また、隣地(150坪)に芝生を植えお日様の下で昼食やおやつを食べたり、散歩場として活用している。若いスタッフが多いので、利用者と一緒に若やいだ雰囲気づくりを疲れないうちに大いに心がけている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あなたに寄り添った あなたらしい暮らしを		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の暗唱（朝礼後、個々の仕事始め）し、日々努力している	○	スタッフ一人ひとりが理念の理解を深め、実践できるように努める
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	さざん家だよりに必ず掲載する		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方からおすそ分けを頂いたり、畑の一部を借りて収穫の喜びを味わったり、近所の子供達が顔を見せてくれたり、入居者に犬を抱かしてくれる近所の人もある。また畑作業や庭木手入れの手伝いもしてもらうこともある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月、町内会回覧板にさざん家だよりを載せていただいている。また、地区デイサービスにも参加させてもらっている。また町内会文化祭にも出展している	○	クリスマス会等の行事にご案内をしている。より多く参加していただけるよう働きかけをしたい。さざん家の機能を地域に還元できるよう、認知症ケアに関する講習会で事例発表など、出来る事から取り組んでいきたい
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者受け入れはできないが、町内会には役立つことがあれば、と申し込んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年、評価で指摘された点はおおむね改善した		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議で、出席者の意見を十分に聞き、ホーム運営に取り入れている。外部評価を報告し、質疑応答、指導すべき点は受け入れている	○	より活発な意見を頂ける様、会議内容を充実させていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡会議に出席している。また、まごころ相談員の訪問も受け入れている		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1人利用中。入居時にパンフレットにて説明し、パンフレットも用意している		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月刊福祉ニュースの回覧、気になる記事などの貼り出し等で意識を高め、スタッフ間で注意し合う	○	毎月の勉強会で認識を新たにし、徹底したい
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつでも相談を受ける旨の説明を入居時はもちろん、御支払い時などでも話している		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置、相談窓口のポスターの貼り 出しをしている。また、そちらへ直接電話 しても良いとの説明もしている		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	毎月1回、各家庭へお便り(さざん家だよ り、各人の近況を手紙で同封)。健康状態 (発熱、元気の具合など)変化があれば直 ちに連絡している		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見投書箱を用意している。何も なくても定期的にスタッフ間で話し合うよ うにしている		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	随時受け付けている	○	より発言しやすい場や環境を作りたい
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者の状態を考慮し、生活の流れを支援 する為これに即したローテーションを組ん でいる		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の前には顔を覚えてもらえるよう1ヶ 月の馴染り期間を設けている		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に際して、性別・年齢等の制限は設けていない。各人の特技を活かしている。防災・環境整備など各スタッフに役割を担ってもらいホーム運営に役立てている。勤務表もまずスタッフの希望をきいて編成、趣味・勉強といった自己実現の支援もしている		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修には積極的に参加するよう話しており、そのための勤務表編成の考慮もしている		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務表でやりくりしながら資格や研修を受けさせている		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女筑後広域連に参加し、研修や会議に参加している	○	筑後市にGH会が設置される予定なので左記から退会し、そちらに入会する予定である。また新たに福岡県の協会に参加した。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	さざん家ソフトバレーボールチームを結成している	○	試合の時は入居者と一緒に応援に行けるようになりたい。(現在は施設長と数名のみ)
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常々口にして話している。できるだけ将来の役立つ資格などを取得するように。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	情報提供書をスタッフ全員でよく読み、またご家族からの情報聴取に時間を割いたり、本人の入居前ホーム見学をしてもらう		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時に時間をかけて説明し、ホーム見学・説明をする		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科への受診をすすめ、グループホーム対応かどうかを診断してもらう		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族や本人が希望する場合、昼食・おやつ等を体験してもらう		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味を一緒にしながら、また教えてもらったりしている		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から本人の情報をもらい参考にしながら、支援するよう努力している		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への思いや愛情を伝えるようにしている		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊・外出、ご家族の面会はもちろんしてもらえようをお願いをしているが、ご家族の許可を得て友人・知人の面会を受け入れている		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席の変更や作業を一緒にしたり、合唱をするなどの和を保って会話が長続きするよう支援している		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長期になり退居になった元入居者にも面会に行ってるし、ご葬儀には勤務者以外は全員で列席する等をしている。またご家族からも御手紙などを頂いた		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のペースや思いを重視し、スタッフの都合で業務をこなそうとしない。もちろん個人単位でのケアに努力している		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をスタッフ全員で周知し、サービスの方向を検討し努めている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者を決め、一人ひとりの現状を把握し、プランを管理者、ケアマネ等と話し合っ て決め、都度変更もしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成には、本人・家族・担当者・スタッフで情報を出し合い、計画作成をしている	○	利用者に沿ったより良い計画作成に努めたい
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は必ず2週間後に見直しを行い、検討する。その後は3ヶ月を目途に評価。状態の変化があればその都度変更していく		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成後は、ケース記録の個人記録の最初に綴じて、スタッフ全員で目を通すようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとって毎週の往診を受け、重度化しないよう看護師を配置している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の受け入れ、ボランティアの受け入れ、消防署の立ち入り検査、小学校・幼稚園の運動会見学、地区文化祭への出展・見学		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地区デイサービスへの参加をしている	○	現在2名が参加しているが、希望者が増えるよう努力したい
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっている。また、まごころ相談員の見学も毎月受け入れている		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとって毎週の往診を受けている。またかかりつけ医師の希望があれば受診に同行して希望に沿っている		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に家族と共にスタッフも同行し、受診をしている。医師の診察も家族の許可を得て、一緒に聞いている		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤職員として雇用している		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	できる限り面会をし、入院中の情報を病院スタッフから収集して早めの退院も受け入れている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	スタッフで繰り返し話し合い、全員で入居者・ご家族の希望を確認している		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できる・できないこと」を検討し、医師と早めに相談し変化に備えている。また家族の意向を聞いて個人ごとの対応を決めている		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には入居者に納得して頂き、入居後にはできるだけご家族に来てもらい会話をしてもらう		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのちがいを尊重し、さりげない介助や私的な場所での礼儀、入居者の返答能力に応じた質問をする。入居者が思っている「現実」を否定しないように心がけながら接している。スタッフは誓約書に署名し守秘義務を徹底している		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日に着る服等を選んで頂く等、何事につけ「〇〇しますか」「〇〇していいですか」と問いかけをし、選択が難しい入居者には選びやすいように二者択一で問いかけたり、「はい」「いいえ」だけでも意思表示してもらえようにしている		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時刻に就寝させるのではなく、入居者のペースで就寝してもらう。また朝寝の人は朝食・昼食を加減するなどの対応も日々行っている。そして家庭的な雰囲気づくりに気をつけている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、訪問理美容が来ており入居者の希望を訊きながら整髪している。もちろん地域の理髪店・美容院も利用可能だが現在は全員、訪問を利用している。ご家族と外出時に整髪された方もいる		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど簡単な作業を手伝ってもらっている。スタッフも同じテーブルで食事して、食器を動かしたり茶碗におかずをうつしたりと、さりげなくサポートするなどの介助をしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は現在いない。御酒は利用者やご家族から希望があれば提供の用意がある。おやつはなるべくスタッフの手作りで一緒に食べており、飲み物も希望・好みに合わせている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、下着やおむつも入居者の心身状況別・昼夜別に使い分けをし、また毎日少しずつ起立訓練や下肢筋力UPをして排泄の自立に向けた取り組みもしている		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と入浴前の安静時にバイタルチェックをして入浴可能かどうかを判断。利用者の希望を訊きながら時間帯や長さ・回数などを決め快適な入浴ができるようにしている。個別入浴で、スタッフは必要時介助をし本人能力の維持向上を目指している		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、天気の良い日に散歩や外気浴をしたり、軽い運動をしたりと安眠できるよう利用者やスタッフで検討・実行している。また自然に入眠して頂ける様、夕方～夜にかけて静かな雰囲気作りを心がけている		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、食器拭き、畑仕事、草取り等ホームの活動に参加してもらう。歌好きが多いので歌番組のDVD観賞、一緒にカラオケ、計算や短歌、数並べ、また広場でお茶を飲んだり、おやつを頂くなど楽しんでいる		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している入居者は現在1名いるが本人紛失の危険性があり、ご家族と相談中である。普段所持していない人も買い物にお連れした時、介助支援しながらレジ支払いをして頂く等の場をつくっている		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩したり、買い物に同行してもらったり、また広場で食べたり、車で遠足に行ったりしている		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけ2ユニット又は1ユニットごとに遠足・レストランでの食事・柿狩り・花見などを行っている		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の代わりに封筒表書きを代筆したり、文字を教えたりして手紙のやり取りを援助している		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも受け入れる事を度々話しているし、受け入れてもいる		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしない事を理解しているし、絶対にしないと全員で確認している。またそれを実践している		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的に施錠はしていない。	○	見守りの強化、行動パターンの把握などで、常時開錠をしていきたい
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーを守るドア閉め、ドアロック、入室時の許可などを厳守。また利用者安全第一を実行している		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない所、見えない所、管理できる所に保管するよう周知徹底している		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ勉強会およびマニュアルの取り決めに従って取り組んでいる		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間スケジュールに項目を入れて訓練、習熟している		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内のどこにいて、避難経路が決められており、避難場所も確保されている。防火管理者スタッフが「夜勤時緊急マニュアル」作成。昼夜別々の誘導方法を決めている。近所への協力依頼も行っている。	○	スタッフ全員に防火管理者講習を受けてもらい、災害に対する意識を高めたい
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会時に管理者・ケアマネが説明し、対応策を検討している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化・サインも見逃さない見守りを指導し、記録を録るように徹底。医師に指示された内容は、ケース記録・連絡ノートを活用し周知徹底している		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬の管理はスタッフがやっている。用法・用量について不明な場合は医師・看護師に確認する。「薬辞典」を用い自己学習も促している。毎月のスタッフミーティングの場を利用して勉強も都度行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者のケアプランに基づき、便秘予防に留意し、十分な水分補給を実行している		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	スタッフは必要性を理解し、ケアプランに基づき支援する。また必要時には往診依頼、受診の際には同行もしている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より個人個人に対応した栄養スクリーニングをしている		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それにしたがって実行している		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材業者より配達されたら直ちに、必ず冷蔵庫に保管する。また、台所・調理器具等は毎日、隔日、週に一度などと消毒のマニュアルがあり実行しているし、記録も録っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋造りで明るい外観で周囲に溶け込んでいる。敷地の囲いは低めのフェンス・生垣で開放的な雰囲気づくりをしている。玄関前はプランターの花を常時置き、目の前の畑の野菜や季節の花など楽しめるようにしている		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下の両側に居室・トイレ・風呂などを配置し、天井も普通の家みたいに低めでガランとした印象を受けないようにしている。飾りも入居者が書いた絵やボランティアの習字・直近の誕生色紙などを飾り、大人の空間になるような雰囲気、殺風景にならないような飾り付けを心がけている		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブル、ソファ、イスが置かれている他、冬にはこたつ・夏は座卓を置く畳の間もある。ソファやイスの配置により独りで、または2~3人で過ごせるよう考慮している		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は基本的には洋間であるが、希望に応じて畳を入れ和室にもなる。ベッド・布団は利用者・ご家族で決める。また持ち込みの家具も各自で自由であり、それぞれ異なる居室になっている		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いを発生しやすい行動をとられる利用者も何人かおられるが、常に換気に注意し、洗剤・消毒薬・お茶などで臭いがこもらないように努めている。温湿度計を各居室、リビングなど設置。毎日記録を録っている。また加湿器、除湿機、清浄機も設置している。冬場には洗濯物を夜間干すなど乾燥に特に注意している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない平屋造りで、壁やトイレなどにははすりを設けている。また廊下も直線であり死角をつくらない構造で、入居者が危なくないようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご家族の協力で、家族の写真、絵を居室に貼っている。また日めくりカレンダー、新聞の活用、風呂・トイレの表示を大きくしている		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スロープを設置して外出しやすくし、物干し場に出たり、芝生の広場で外気浴・食事・お茶などを楽しんでいる。また周囲も畑が広がっており散歩しやすい環境である。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域柄、農作業や自然に親しんでいる方が多いので、畑で野菜や花を栽培し草取りや収穫の場を提供している。また、隣地(150坪)に芝生を植え日光浴をしながら昼食やおやつを食べたり、散歩場として活用している。若いスタッフが多いので、利用者と一緒に若やいだ雰囲気づくりを疲れないうちに大いに心がけている。